

## 優秀賞（小学校高学年部門）

「未来につなげ!!農業」

智辯学園和歌山小学校 五年 大谷 碧惟

二〇二四年九月、テレビを見ても新聞を読んでも「令和の米騒動」のニュースで持ちきりです。私の住んでいる和歌山県でもそれはおきていて、スーパーのたなからお米が無くなり買えなくなってしまった状態でした。昨年の米の不作が大きな原因ですが、今農業を仕事とする人が減ってきています。和歌山県は温暖で農作物を作るのにとっても適した県です。でも、私の家の近くでもお米を作らないで、あれた土地になっていく所がたくさんあります。農業をする人の高齢化であとをつぐ人がいないからです。野菜や米を作る人はとても努力をしています。しかし、その割にはとても収入が低く時間と体力を使っている仕事は若い人達には受け入れてもらえません。若いあとなつぎになる人達は、どんな農業だったらしようと思っのかと考えました。調べると「スマート農業」ということを知りました。スマート農業は機械を使って人の労力を軽減する農業です。二〇四十年の和歌山県の農業はスマート農業が主流になっていけば良いなと思いました。ただ、スマート農業をしようと思うと、機械をこう入しなればなりません。大きなドローンを飛ばして田や畑に水をまいたり、消毒をしたりとそれは大変便利なものです。農業をする人が機械を買うために費用がたくさんかかります。その費用の負たんを無利子などで和歌山県が農家の人に貸したり、また和歌山県で農業をする人のために機械をこう入して貸し出したりできたらいいなと思いました。食べ物を作って私達はそれを食べて生きていく事ができるのだから、二〇四〇年の和歌山県は農業を大切にして日本一こうけい者が育っている県になればいいなと思いました。